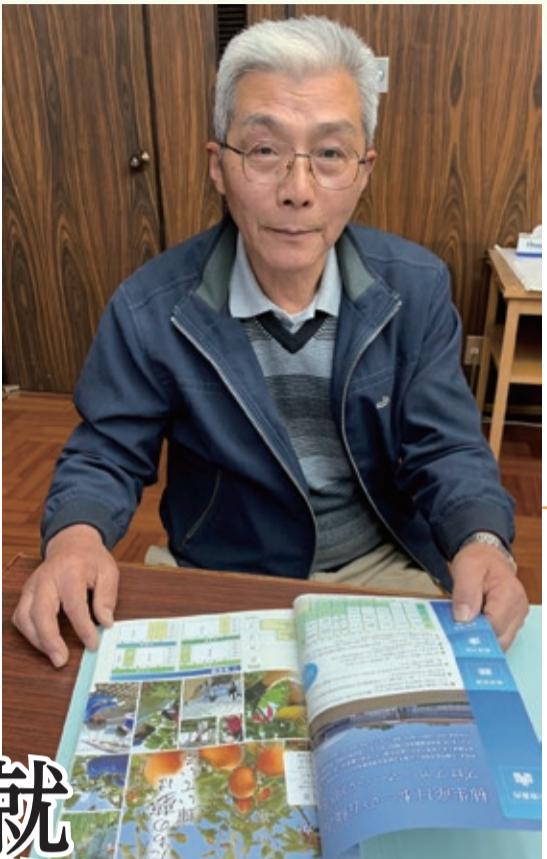


来月、五條市立西吉野農業高が新たな船出

就農体験など地元農家で下支えする「支える会」会長の谷口さん



就農・定住に期待

—最近では、全国募集しているようですが。

学校に出席して教えることもあるし、農家で実習することもあります。6時間目、7時間目まで実習して学校に帰ってくる、そういう形です。

いいと言えます。

我々の時代は、地元の農家の後継者とか、そういう者が学んだところでした。最近はいろいろ変わっています。その中で、生徒の中いろいろな能力差とか実力差もあり

五條市西吉野町黒渕の県立五條高校賀名生分校(修業年限4年の昼間定時制)は、創立から71年目を迎える今年4月、同市立西吉野農業高校として独立した。昨春閉校した同市西吉野町江出の旧西吉野中学校に移転して新たな船出を迎える。再出発する「市立西吉野農高」に思いを馳(は)せ、元市あんしん福祉部長で同校分校同窓会長の谷口幸雄さん(66)=同市西吉野町茄子原=や旧市内の生産者、農業生産法人代表らが「支援する会」を結成した。就農体験の受け入れや就農・定住への支援などを下支えする。県内外からの生徒を受け入れる寄宿舎「桜花寮」・家族がそろって入居できる住宅も備わった。全国屈指の果樹生産地で、野菜づくりや養鶏農家も多い同市。若い担い手を育成することを第一に、新生「西吉野農高」へかける期待は大きい。そこで、支える会会長となった谷口さんに話を聞いた。

か実習にしても校内の果樹園だけになります。将来農家として自立したり、後継者になつていただけるように、生徒育成のために各地域の農家が集まつて、その子らに果樹づくりなど、法人で生産加工しているところもありますので、まず技術を覚えていただきます。愛着を持って農業として定着、あるいはここに定住してもらうことが大きな目的です。

—柿などで「西吉野」の「ラ
ンド力がついてきたのでは。
全国で上位を占めるよう

支援内容については、4年制なので1年、2年の間は学校の授業の中で基礎技術を学んでもらうと聞いています。その後、支援している農家などで研修をさせていただく。その中で柿や梅の育成・栽培、せん定・摘らいなどの技術を覚えていたり。生徒の中には、花や野菜などを志向する子もいると思います。それを先生がく

いです。2年ぐらい前から先生方も出向いて行って募集要項を説明しています。最初募集したのは近畿圏内がほとんどでした。それが全国募集の形をとって、遠いところでは千葉県などからも来てくれるようになりました。こういう時代で、経験のない子も来てくれています。

りに農業後継者育成というのに携わってきたのです。それが今バリバリの経営者になっている50代、60代なのです。その次の代の子をどういうふうに引っ張り込んでよいやう。頭の痛い課題が突きつけられているようです。

農業といつて若い子か
すればやはり懸念される
業です。コロナ禍の中で
事もなかなかない。そうな
と、最後に残るのは農業関
かなと思います。そこにか
かな光が見えるのかなと
います。現実的にはもう少
年数が経たないと分かり
せんが。自分が食べていか
いといけない時に「この
事はいや」などと言つてお
れませんから。そこで農
を見出してくれたらいい
と思います。

『いのち』と直結した「ひがい」です。農業が発展すれば、私たちの食は豊かになり、生活が華やかに彩られます。五條市は、農業という仕事に魅せるを感じ、真剣に取り組んでいたいという強い意志をもつた生徒さんが、当校を選びプロの農業者となって、とともに五條市の未来を切り開いてくれることを期待しています。

そのために、私たちは農業に関わる各方面と連携しながら、真に実のある経験と未来を拓く力を身に付けます。生徒さんの可能性の種が、五條の大地で豊かに育ち、大きな実を結びことを願っています。

支援する会の目的は、
4年前まで家庭科と農業
科の2科だったのが、農業科
1本になりました。これから

な基盤がでていて、一番の問題は後継者がいるところはよろしいのだけれども、いないところが離農していくたら、農地が耕作放棄地となってしまいます。隣の農家に耕作を頼んでも、隣が「私ももう手いっぱいでなかなか」ということがあります。

An aerial photograph of the Kōchi Prefectural Gymnasium complex. The central feature is a large, white, hemispherical dome. To the left is a long, low building with a red-tiled roof. In the foreground, there is a grassy field and a paved area with some trees. The background shows rolling hills and mountains under a clear blue sky.

「市立西吉野農高」の校舎になる旧西吉野中学校の全景(五條市提供)

願いしようかなあ
と思ってます。

一谷口さんは旧西吉野村役場時代農業分野が長くキスパートですね

育がタイアップしながら、
條で農業をすることを希望
してくれる子がいれば、そ
うの方の元へ案内し、田畠
貸し借りや、売買ができる
と考えています。もし、そ
ういう経営という形が今後、
県、2年計画でやっていきたい

—西吉野農業校の生徒に期する」とは。

待 メッセージを送っている。

現在の県立五條高校駒賀名生分校



昭和25年	県立五條高校賀名生分校 (昼間4年定時制)として、 賀名生中学校に併設
同30年	新校舎完成
同41年	北海道余市町の大規模農 家に分宿する「北海道現場 実習」開始
同49年	健康祭開始
平成4年	健康祭を「世代交流活動ふ れあい健康祭」に改称
同16年	現在地(旧西吉野中学校校 舎)に移転
同17年	合併により新生五條市が 誕生。設置者が旧西吉野村 から五條市へ
同29年	家庭科の募集を停止。農業 科のみの募集に変更
同30年	志願者の全国募集開始
令和3年	五條市立西吉野農業高校 として独立・開校

学校沿革